

Recherche 00024 マルセリーノジャケット仕様書

ニット用(見返しに布帛使用)

パターンパーツ数 9

～付属品～

伸び止めテープ(ウーリースピンテープ)

接着芯

留め具

サイズ	80	90	100	110	120	130	140	150	
着丈	30	33	34	39	42	45	48	51	
肩巾	21.4	22.2	23	24.2	25.4	27.2	29.2	31.2	
身巾	29	30.5	32	34	36	38	39.5	41	
袖丈	26.5	31	35	39	43	47	49	53	
袖口巾	8	8.3	8.6	9.1	9.7	10.3	10.9	11.5	
用尺	110 巾	72	77	83	111	116	121	130	175
	150 巾	50	77	83	92	96	105	110	117

!

オリジナルパターン・仕様書の著作権・販売権は Recherche が所有しています。
いかなる理由であっても、オリジナルパターン・仕様書の無断転用・複写・流用及び転
売はご遠慮ください。

■!用語

CF(センターフロント).....前中心

CB(センターバック).....後中心

SL(ショルダーライン).....肩線

AH(アームホール).....袖ぐり

SNP(ショルダーネックポイント).....肩線の衿側

空ロック.....布端処理等に用いる、縫い合わせをしないロック

コバステッチ.....1~2 mmの端ミシン

■ 裁断前に必ず地直しを行ってください。

■ 二本針四本糸ロックミシン使用を想定しています。それ以外の場合は着用し辛くなったり、糸切れの原因になりますのでご注意ください。

パターンには芯を貼る位置やステッチの巾等の指示が書いてありますので、本仕様書と共に確認しながら作業を進めてください。

----- 作り方 -----

粗裁ちし、接着芯を貼ります(※本仕様書では省略しています。)

「前・後見返し」と「衿」を粗裁ちをした後、全面に接着芯を貼ります。

(※粗裁ちとは…接着芯を貼ると生地が縮む為、パターンよりも大きめに裁断する事です。)

裁断

地の目線を確認し、生地の方向や伸びに注意しながら裁断します。

粗裁ちして接着芯を貼ったパーツもパターンどおりに裁断し直します。

ノッチ(合印)を入れます

各部にノッチを入れます。

裁断時、わ になった部分にもノッチを入れます。(CB、後見返し CB、衿 CB)

※ノッチとは、縫い代に 0.3 cmほどの切り込みを入れることです。

※ノッチを深く入れすぎるとほつれやすくなりますので注意します。

※各所縫い合わせの時はこのノッチどうしを合わせます。

伸び止めテープ・接着芯を貼ります(※本仕様書では省略しています。)

「後身頃 SL(肩線)の縫い代の裏」に伸び止めテープもしくは接着芯を貼ります。

衿



「表衿」と「裏衿」を中表に重ね、出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。

※表衿が若干大きくなっています。
(左画像は裏衿が上)



カーブの急な部分の縫い代を少し切り落とします。

衿の縫い代(外周)に切り込みを入れます。
※カーブの急な所は多めに入れます。
※縫い目を切らないように注意します。

衿を表に反し、アイロンをかけます。



外周にステッチをかけ、衿ぐり側縫い代も揃えて縫い合わせます。(※出来上がり線より縫い代側を縫います。)

見返し



「前見返し」と「後見返し」を**中表**に重ね、出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。



3 mm切り落としながら 5 mm巾の空ロックを「前・後見返しの外周」にかけます。

※SLの縫い代は**前見返し側**に倒します。



袖



3 mm切り落としながら5 mm巾の空ロックを「袖口」にかけます。



「袖口」を出来上がり線で折り、ステッチをかけます。

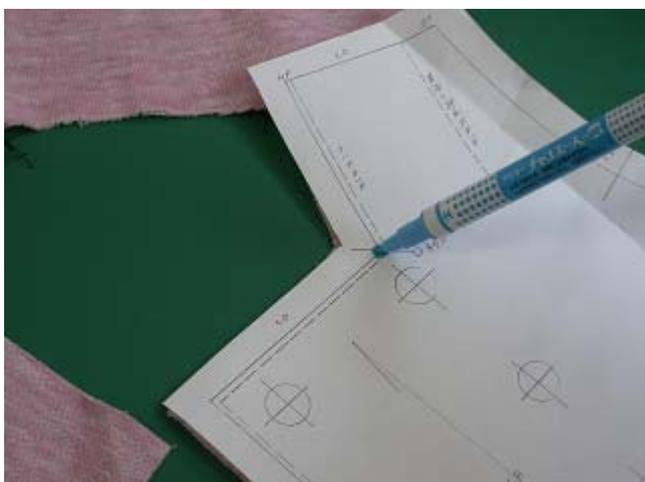
SL・衿ぐり



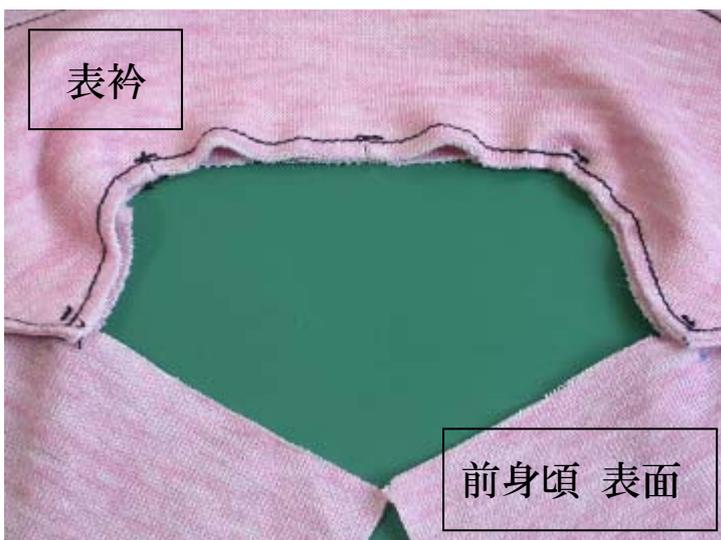
「前身頃の SL」と「後身頃の SL」を中表に重ね、5 mm切り落としながら5 mm巾ロック(2 本針 4 本糸ロック)で縫い合わせます。



※表から見たところ



衿付け止まりに印を付けます。



身頃の表面に、**表衿が上になる**ように衿を重ねます。

「衿の端」「NP」「CB」の縫い代を身頃に仮留めします。

※SL の縫い代は後身頃側に倒します。

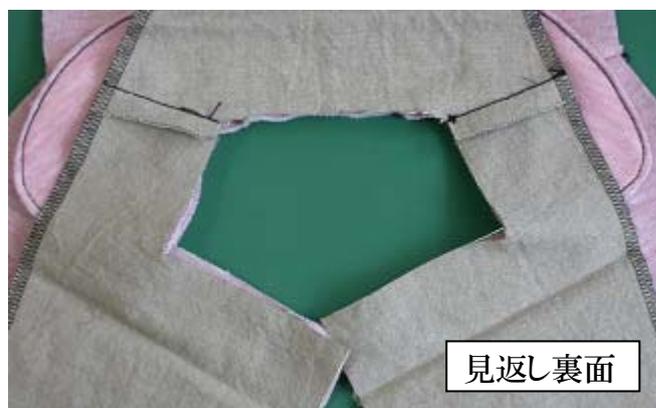
～衿付け止まりについては次ページ参照～

～衿付け止まりについて～

衿と身頃衿ぐりの縫い代を揃え、「衿付け止まりの印」と「衿の出来上がり線」が重なるようにします。



「身頃・衿」の上に、「見返し」を中表になるよう重ねます。（※見返し裏面が一番上になります。）



※拡大

身頃と同じ要領で見返しの衿付け止まりにも印を付けます。



「見返しの裾」～「衿ぐり」～「見返し裾」の出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。



前裾の縫い代を切り落とします。

衿ぐり側も同様に切り落とします。



衿付け止まりの縫い代に切り込みを入れます。

※衿の縫い代を避け、身頃・見返しの縫い代
のみに切り込みを入れます。

※縫い目を切らないよう注意します。



「衿ぐりのカーブした所」の縫い代に切り込みを入れます。

袖・脇

「身頃」と「袖」を中表に重ね、5 mm切り落としながら5 mm巾ロック(2本針4本糸ロック)で縫い合わせます。※袖の左右を確認し、衿を縫い込まないように注意します。



見返しを表に反し、アイロンをかけます。



裏側



「袖・身頃」を中表に折り、5 mm切り落としながら5 mm巾ロック(2本針4本糸ロック)で「袖口」~「脇」を縫い合わせます。
※袖ぐりの縫い代は身頃側に倒します。



3 mm切り落としながら5 mm巾の空ロックを「裾」にかけます。

※身頃脇の縫い代は後身頃側に倒します。



袖を表に反します。

「袖口の縫い代」を後身頃側に倒し、ステッチで押さえます。

衿ぐり・裾

衿を立て、「衿ぐり」「身頃前端」「裾」に続けてステッチをかけます。



※衿に隠れる位置から縫い始めます。

※一周したら縫い始めと縫い終わりの縫い目を縫い重ね、返し縫いをして糸を切ります。



※前裾表面



※前裾裏面



見返しの固定の為ステッチをかけます。

※衿に隠れる位置から縫い始めます。



～ステッチについて～

ステッチを見せたくない場合は衿に隠れるSL周辺のみステッチをかけます。

※前身頃の合わせの部分はボタンで固定される為、ステッチは省略してもかまいません。

※後見返しが大きめなので SL 周辺にさえステッチがかけてあれば見返しが跳ね上がる心配は少ないですが、衿ぐりCBにタグ等を縫い付ければさらに安心です。

ステッチを目立たせたい場合は、見返しの裾まで続けてステッチをかけます。

留め具

ボタン(ボタンホール)やスナップを付けます。

-----完成-----